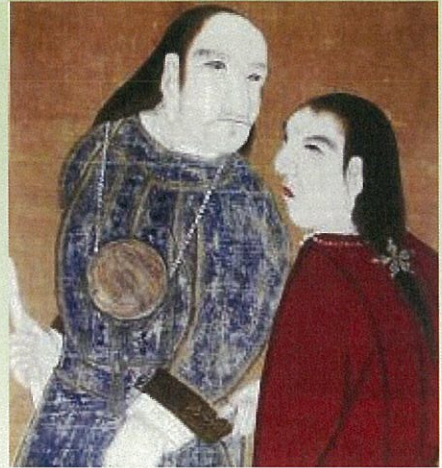


大黒屋光太夫



大光

(ダイ・コー) 第 18 号

ラクスマン来航 220 周年を振り返る

平成 24 年は、ラクスマン来航 220 周年でした。当市では、第 8 回特別展「北の黒船・ラクスマン来航—光太夫帰国 220 周年—」と題し、ラクスマン来航についてより詳しく多くの方に知って頂くために特別展を開催しました。1444 人の方にご来館いただくことができました。

このラクスマン来航にちなんで、当市では、ラクスマンが乗って来た「エカテリーナ号」の船舶模型と、「キイタフの内子モロ場所之図」(天理大学天理図書館蔵)から根室に来航した時の様子を再現した「ラクスマン来航情景ジオラマ」を作成いたしました(船の科学館・海と船の博物館ネットワークの支援金を活用)。こちらは、今後の展示にも活用してまいります。春の企画展では、ジオラマを展示しておりますので是非ご覧ください。

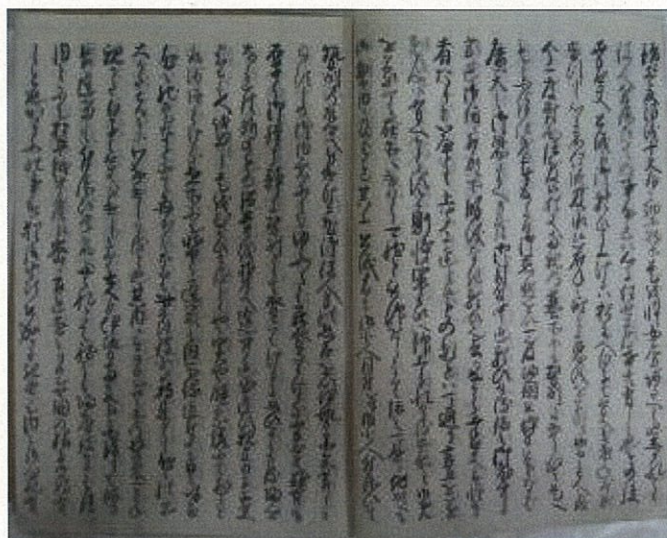
ラクスマン来航 220 周年の記念事業は、鈴鹿市だけでなく、来航の地・根室市でも行われました。「ラクスマンの根室来航と根室の文化景観」という企画展には、今回作成したジオラマに加えて、当市所蔵のおろしや国酔夢譚の衣装とパネルなども展示していただきました。また、当市の学芸員も光太夫について講演する機会を頂きました。今後も、関係する館同士の連携を強めていきたいと思います。

目次

ラクスマン来航 220 周年を振り返る	1
光太夫と伊勢神宮	2
帰郷文書とは	2
帰郷文書から読み解く光太夫の里がえり	2-3
寄贈者に 70 周年表彰	4
市制施行 70 周年事業	4
今後の展示	4



根室市での展示の様子



「北海異談」(鈴鹿市蔵)

(前ページより)

現在、記念館で展示している資料に「北海異談」(文化 4 (1807)年成立 上写真)があります。この作者・南豊亭栄助は大坂の講釈師で、光太夫の漂流とラクスマン・レザノフの来航など、緊迫した日露関係の事件を題材にとって、反響を呼びました。しかし、その内容にはロシアと日本が戦争して蝦夷地を取られたなどという創作が加わっていたために、偽りの内容を流布した罪で捕えられ、江戸で処刑されてしまいました。このなかに、光太夫の里がえりについても触れられています。

「幸太夫は軽き者なりといえども、上聞に達し候ものなれば、一通り言上を遂げずば有るべからずと、則ち、將軍家へ仰せ上げられる処、忝(かたじけなく)も御免を蒙(こうむ)り、在所へ遣わし然るべくと仰せ付けられ候なり。これにより、一通り紀州へもご案内に及ばれ、其の上、公儀よりも御小人目付、ならびに御小人付添ひて勢州の故郷へ遣されける。もつとも御役人方の思し召しをもって、伊勢参宮苦しからずとの御内意にてやふやふと罷り登りける。幸太夫、ありがたき旨厚くお礼申し、静かに勢州さして登りけるに、思ひよらざる帰郷なれば、所のもの酒肴を携え、途中迄出迎え、親方白子与太夫よりも人を出し、是を迎えけるとかや。実や錦を飾る諺にて、色々取沙汰しける。在所にて暫く逗留の内所縁近付よりも日々呼び寄せ、色々馳走などにて毎日毎日なり。此節彼国より持来りし色々な品大かた夫々にわけ遣わしけると也。其内にはロシア王の装束一重、親かた白子与太夫江遣したり。それより伊勢両宮江参詣して余り長逗留も付添いの衆へ無礼とて程なく帰府致しける。」

(光太夫は身分は軽いといっても、將軍様にお目見えした者なので、勝手に帰郷を許すことはできず、將軍家にお伺いして許可を得た。そのため、紀州徳川家にも連絡し、幕府からは、御小人目付と御小人も遣わされ、伊勢へ帰郷に付き添うことになった。伊勢神宮に参詣することも内諾を頂き、光太夫は厚くお礼を申し上げ、江戸を発って伊勢に向かった。思いもよらない帰郷であったので、地元の者

たちは酒肴を携え、途中まで出迎え、親方の一見勘右衛門よりも人を出して出迎えたそう。故郷に錦を飾るという諺のように、色々歓迎され、逗留中は親戚や近所の者たちに呼ばれて、ご馳走をうけること毎日毎日だった。この時にロシア国より持ち帰った色々な品を大かた分け与えたそう。ロシア王の装束一重は、一见勘右衛門へ遣したという。それから、伊勢両宮へ参詣し、あまり長逗留も付添いの衆へ無礼であるということで程なく江戸へ帰った。)

この記述をそのまま鵜呑みにすることはできませんが、少なくとも大黒屋光太夫と同時代の栄助は、光太夫の帰郷は故郷に錦を飾ったものと捉えていたことがわかります。そして、重々しい警備の理由は、光太夫が將軍にお目見えした身のためであると述べているのです。地元では全く伝えられてこなかった光太夫の帰郷について、栄助はどこで知ったのか、取材を行ったのか、亀山藩の目付を公儀の目付としているなどの多少の錯誤はあるものの、帰郷文書に書かれた内容とかなり近い情報を記していることにも注目されます。

他にも白子でロシアの話をした聞き書き(服部中庸「一席夜話」)が遺されているなど、帰郷文書とその周辺の関係する資料に目を通すと、帰郷した光太夫が厳しい統制の中にあつたという印象は受けません。光太夫より先に帰郷した磯吉も菩提寺の住職にロシアの話語っています。

光太夫の帰郷は、故郷に錦を飾った。そう考えても良いのではないのでしょうか。

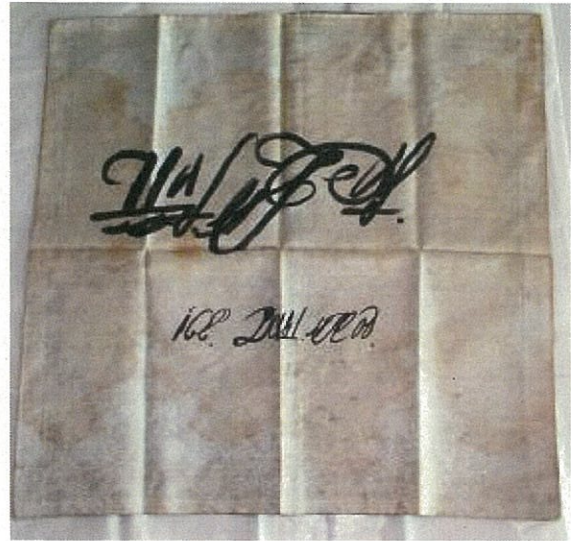
寄贈者に 70 周年表彰

鈴鹿市が市制 70 周年を迎えるにあたって、それぞれの分野で市政の発展に寄与された方々に対して市政功労者表彰が行われました。

教育文化の振興に貢献されたとして、「大黒屋光太夫」(吉村昭著)の直筆原稿を寄贈された津村節子様、大黒屋光太夫の墨書を寄贈された川出和彦様、伊勢型紙の図案を寄贈された浅生厚様に、教育文化功労賞が贈られました。

津村様、川出様からのご寄贈資料は、現在記念館で展示中ですので、是非ご覧ください。

これらの貴重な資料をご寄贈いただきました 3 名の方々に、改めてお礼申し上げます。



川出様ご寄贈の「ツル」
イセ・ダイ・コーと署名もあります。

市制施行 70 周年記念事業

平成 24 年は、ラクスマン来航 220 周年であるとともに鈴鹿市制施行 70 周年にあたる年でもありました。文化課では記念館の第 8 回特別展「北の黒船・ラクスマン来航ー光太夫帰国 220 周年ー」「特別公開・朝鮮通信使胴掛」を市制施行 70 周年事業として行いました。また、市内 75 歳以上の方にインタビューを行った内容を中心に「鈴鹿の記憶ー戦中戦後の証言と資料ー」を作成しています。こちらは 2013 年 4 月中旬頃から 500 部限定で文化課で販売いたします。

ご興味をもたれた方は文化課でお買い求めください。

今後の展示予定

3月21日(木)～7月15日(月) 光太夫の里がえり

7月18日(木)～9月16日(月) 知っておどろき！大黒屋光太夫

ゴールデンウィークは、4/29 5/6 は月曜日ですが、開館いたします。
ゴールデンウィーク期間中の休館日は 4/30 です。
皆様のご来館をお待ちしております。

鈴鹿市文化振興部文化課 大黒屋光太夫記念館

鈴鹿市若松中一丁目 1-8
059-385-3797(記念館)
059-382-9031(文化課)
bunka@city.suzuka.lg.jp

Web サイトのアドレス:
<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/kodayu>

